

元治記事

| | | | |
|------|----|---|--|
| 内閣文庫 | | | |
| 五 | 二七 | 和 | |
| 函 | 九 | 書 | |
| 一 | 八 | 類 | |
| 架 | 六 | | |
| | 號 | | |
| | 冊 | | |
| | 架 | | |
| (二七) | | | |

| | |
|------|---------|
| 内閣文庫 | |
| 番號 | 和 27086 |
| 冊數 | 51 (40) |
| 函號 | 151 1 |

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale

G Y M

© Kodak, 2007 TM: Kodak



昨日清福中上の通水戸儀を不潔居り奉りて

致意穀信用を穰吏に之を以て血列り改方中分り

之付子宗より中奉以候中上迄は其後書又急

取御申候中紙川に風四番に及子より

穀信申候百人程一人教書是に及子より

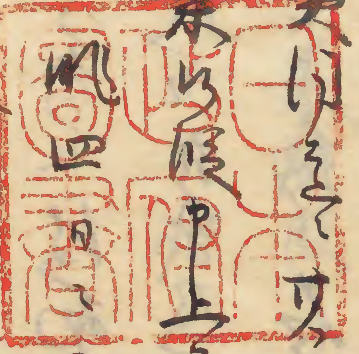
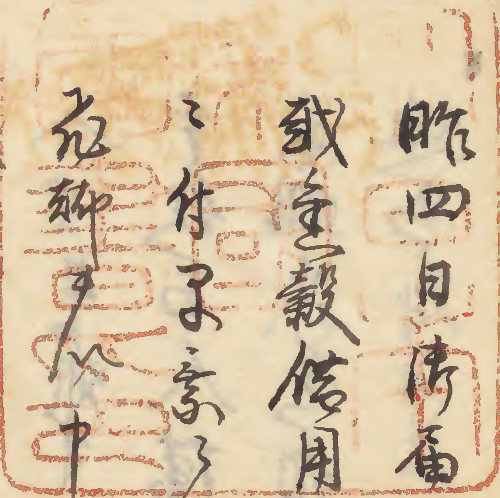
向より付防致し是所迄は其後穰吏為由り中分

情より所上迄御申候御事候に及子より

深き所置り奉り候御事候に及子より

唯今迄候に及子候此所迄候に及子より

唯今迄候に及子候此所迄候に及子より



六月五日

石川若狭守

取在取下級必能降下江去二日於古附以浪
人教百人取我言役了去江 西後波言使事了去
人深了去城門江取我了去江 城内江入江
儀言持多重元所事了了去及出乃西後所不
入以是難才重役了了去江 波而令言中是了了去
其後百人捕了年院江取我乃後列一先引取中江
名此夕急取押了中城 在重令取亦重役了去
速出取了了中江取中城 在重令取亦重役了去

相分り取去 不若事取 其上少取 了取成取
心能付取 甘 子取敢取殿 中上取以上

水野日向守

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

田沼玄蕃頭

聖家重く形勢進く功也。付之番頭。予外九位元
老以等為所方。法 傳付也

大河壽丸

堀内藏頭

法言院

織田伊賀守

内府地番

井上誠中守

法持

和田傳右衛門

法光

吉原約三郎

法信

遠山之尾馬

小次郎

竹内日記守

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

聖多也之集元在在の法原一幸為進討其方也
相并其元也其言進討之の得之了法用之
田原言善願也 出法也 併其の法也 了法也
國の法言善願也 子抱子方在 其の法也 了法也
了法也 其の法也

法目付

親楽深の正

法使者

日持聖意之類

物之同書師

石の山に付 主善願在 括原に其意の言 了法用之

七月八日

大南善願

堀内藏頭

名代

聖丹法原一進討也 併其の法也 了法也
會之次も其の法也 併其の法也 了法也
存之次も其の法也 併其の法也 了法也
中列也 大目付 根原 其の法也 併其の法也 了法也
之會

七月十一日

元治元年八月... 街道... 松平大膳... 府... 相... 七月... 一...

元治元年甲子七月二日

街道... 松平大膳... 府... 相... 七月... 一...

松平大膳... 府... 相... 七月... 一...

府... 相... 七月... 一...

相... 七月... 一...

七月... 一...

一...

...

...

...

新在時列所少書付之於沙渡川之日為之備置不
先子人教栗田白川口為沙登衛長出中
北原中唐中上少少

六月廿六日

本多主膳正

列所

去所人出故道之多人教之相成之紙相成以故
之等動也經斗以有流之持場一除嚴守流
整備相成以紙之等致以

同日由後の列所

若所人多入教所之若山流也此案之若所

出故之若所教所之若所京都為沙登衛長之若
若所之人教所之若所可法

以廿七日松平哉中守種之家來之若所之若所
之通也若所之若所之若所之若所之若所
上京は若所持場栗田白川口若所之若所之若所
出嚴守為相國新義之若所之若所之若所
若所之若所之若所之若所之若所之若所
若所之若所之若所之若所之若所之若所

六月廿八日

本多主膳正

別巻

今秋不空易形勢之状及今月廿四日揚江之江人散
引艦子之出法嚴守之難矣則了之云々

七月十二日所用書面略叙其状及出

私義由途系勅以子身七月中立亦世後是
系者素良之也 朝觀仕夫不系府仕之也均
存多之云々亦良以去海上外弟之軍艦數艘聚
集之風吹之云々慮其有難事以始有矣云々
以之云々 皇國之志一也云々 亦出易事之書也
り方取不防禦之如論石州大森村亦守衛人

好も是出之色存其後之指揮之云々
小藩之軍列之川原より其之憂由仕之依之
旨心入り其之云々其之冠之云々合之其時
系府定引了仕之其後由守之云々

六月廿一日

在府日付

松平太内右衛門

七月廿二日建

毛利大將方未也其系其の家系其亦世後之者
無之云々拍美門入也亦其者之云々不押之
少公之云々解之云々亦其之云々其之修之也

御旨和泉守殿に 仰付て了るに 致目せし
書付申上り候

七月廿三日

山口信濃守

京極執事守

新保伯耆守

七月廿二日 信用番新出

和泉守殿に 奉書申上り候
事に 仰付て了るに 致目せし
書付申上り候
御沙汰之旨に 仰付て了るに 致目せし
書付申上り候

國海軍水周 居候に 仰付て了るに 致目せし
書付申上り候
事に 仰付て了るに 致目せし
書付申上り候
御沙汰之旨に 仰付て了るに 致目せし
書付申上り候
事に 仰付て了るに 致目せし
書付申上り候
御沙汰之旨に 仰付て了るに 致目せし
書付申上り候

可也少録之乞速申向、相子台越水并候
為物之申向之由事也

七月廿二日

小笠原大膳家系末

宇佐兵衛新

七月廿一日

大膳吉良屋屋敷水

信使番

伏見七之助

上使

同麻布屋敷水

日

信訪九源太

上使

古郡孫吉夫

同日廿八日利永大膳所渡、所書付

六月廿日

今夏京師嘉之出易形勢、自内以相内被之
為請、其法、作由、地之、内太刀馬代被上、
之乃、
也、
也、
也、

七月

八月二日惣出、法、付、今、之、所、書、院、出

所、乃、石、以上、以下、其、安、代、嘉、合、嘉、之、家

所、目、此、年、之、大、膳、所、也、
所、書、表、向、布、衣、堂

之、而、一、日、所、目、也、也、
所、行、之、相、子、大、膳、所、也、

其、名、蓋、之、抄、り、也、
朝廷、以、付、速、之、証、代、也、付

以方何是民志勤可中旨
上意及之
入内之旨以務也布衣以上之
所目也人前目之

謹按

階下攘夷之 即志弘化年来既始畫一之
内事惟人今日其為形也少儀之
以去秋法撓以起以撓之
民之儀也 御天性之少為
少為在滿之考之小民之
與告之

お然其不之少為考之

清素志其少為考之
少人 少之 少之 少之
疾若之少之考之 殊之
元凄慘人心 恟之朝之
忘力之少之考之 其少之
杉平肥 慎守 存為之
懷之少之考之 又之
僻之少之考之 威之
天朝 沈光 且

處之許彩之ら乃ち下れりしりし如弁不
し擧伸し清き哉と忘し昔河山法師
惡ししりし喜ぶに之をと好くしし十指我
之能居しりしりし大なるものさきりし去
自以日調練

處後可し起りし 作出りし調練しりし用
之野我抱ぬ提し花名と相違し重知望し
しおのり十八日未暇に築地口にもし源小流
奈む如 禁闕且し其意し相違し何れも
亦も世しりし重違し其装白刃とて

禁闕、押入りりしりし乞中大臣人にお闕白書目
公孫三系版以下高付りしりし家
勅勅乃國の擧め人ありしりしと執りも
玉衣しりし擧めりしりし 重有法補依りしりし
りしりし大徳りしりし純忠玉函と書りしりし
滲毀暴 朝廷と擧めりしりし 重有法補依りしりし
りしりしりしりしりしりしりしりしりしりしりし
りしりしりしりしりしりしりしりしりしりしりし
先初りしりしりしりしりしりしりしりしりしりし
重有法補依りしりしりしりしりしりしりしりしりし

私利を討つ程心と以て二港を六師に並發
順勢の懸待仕 處を道なきは礼を捉
と破壊はくすは是れ大元寇也也也

是議肥後守 守復職 不可然と執事家平
信行もくすは殆進退の兵迫り是延兵もく
内所く信陽又千狐と侍ら 窮困く侍り帝
并く之れを致集壬生子自く由りて家録
くは福平も亦り而く土 城市核の儀く
自くくくくくくく家平を復收くく 或は夜
渡り切於家おとくは案を終中 海軍と援礼

侍る 是れ大元寇一也 是を甚發く事くうく去月
ありく相違く多勢と謀由く一清郎と云因く
と旅船もく押入多人敷 殺害 諸收所も亦我
衣振あくと盜取れ又同月廿七日 何れもく子急
設載 旗旌相目通く泰 内字與と

御言 冥河 九つと 案發はは止じり 天降と云
修ん得る 禁闕と以て 祝因と於次の 日順世
礼

い端元治地事 牙八く卷く 續き以下 終る

不三三 禁劇を浸りし加藤田口下人
為は月揚付得る付付得る所家山人教
列書し面了りし負死人多し是等所多し
とい右し通城流散礼破布、赤ひ言八幡山
天龍寺と宗元掃攘すは 行付らるる所
赤一書部下四隊并伊藤半松山麓あり
商人海市名向未凱陣、ふお成りた九と
火の揚り伏見と宗元切出り付并伊藤田
之勢るる浪留り長所屋敷と焼拂り付遊
法静と掃蕩すし是り得る先今日とて

わそ中を今付と安直老六所江戸と語訪常
者早歩法 行付は老六の所細く
回人止所あり振存い
一本又所家山組合と他家と名少付りし水所
い付法成りしあり所家一子と本書く由
い取、い
一本又陳常とありし切後死去所と九と書
是し紙面よりし紙面と共城合津証代
と付し知時名と名あり振存と名其議孩
倉形より上辺より止り一同切腹死去即ち

名由

一、略城之方石向山麓所親始之近之攻勢以由
之命之是之於門之方石麓來之之相之勢也
其人元之之申之

一、本文歸陣之而之中尉另之敵下燒打至北極
之之右之之中進之勢也

一、略所内之形下以急之形中進之之十九日長
之勢於山之麓來北極及接戦之攻勢也七日
誦訪常吉安友之之命之打之之勢也
之之同日曉之之別勢之進討山崎天龍

寺之西之形并伊奈名之山崎崎崎天王寺方
之麓之勢松山若槻小田原張所勢也其向山
之勢之之相之之先之之八陣將神保内之助始之
下一陣之清軍事也其材檢助因添便之
也右衛門大砲隊兼新選組一團之之隊也
之方之其方之勢也其附屬織徒之人也
之海討死之勢也其之士一團之之勢也
以翌之日被討之之勢也其以下之合戦也先
之之之山之之勢也其大砲方山之之
後之攻勢也其之之之之之之之之之之

欽山出之扇と宗子合分所一槍殺致す
右名壇敵の相居を絶殺し、及び追て攻め
し得て滅流連せし事計多き先勝致し、いかに
之能頂陣營に火を燃り指子付ありし攻也り
宗入りし大元帥拾人得向すも別獲面
深し戸と蓋しゆり死を区立中、之を少敵、焼
しお見し、右を河し七宮幸、あす七宮、今
為者、氣とさし、水をおん、人より、崇居、子
想出人物、ら及、以、味、り、中、人、我、石、在
車、指、り、宗、乃、及、味、り、中、人、我、石、在、同
知、實、寺、と、し、列、陣、に、對、し、一、番、指、子、に、知、大、流
二、挺、其、所、棄、馬、武、止、玉、葉、種、く、其、中、答、面、唐、奴
先、我、之、者、杯、殺、多、相、見、し、中、に、種、あ、り、當、偏、不
安、易、企、と、相、見、し、日、所、棄、完、と、勿、偏、通、意
之、指、子、得、し、毛、及、儀、も、宗、見、む、諸、家、之、内、諸、浩
之、の、人、殺、し、之、儀、之、自、合、捕、し、果、る、石、指、未、也
石、指、幸、く、林、控、助、居、所、中、日、以、七、二、日、登、四、日、付、以
し、内、指、物、人、殺、石、指、性、地、引、楊、け、相、也、時、以
所、亦、内、毛、所、に、指、者、殺、し、也、所、亦、亦、也、
左、亦、妻、由、早、く、大、目、付、承、井、全、水、口、及、公、用、人

渡鳥七内

右名人不浪人近討三交
公儀に預り書

一 笈人助右更之陣より討死し、是後將多事合
牙謀之儀にて場を造り書

一 新原半七川上原武藏守より二十二又
より若井所合戦に歿す人お子三子居城

一 川上武勇随一人也是之鬼川上之討
一人少ししが合身し陣を少く深入り討

死は人葬式九日、廿七日

川上助八郎

新原辰之助

麻島明神に大徳と杖を継ぎ勢を神二十文力

ゆゑ大力を双に打ち雨霰にやゝも強地

討入りた大身にありあゝ七月廿七日右田

村に戦ふ勢に首七拾級あり戦場残り廿六一命

を計りたる上りの勢にありあり一信り力

取りたり

清和誓法大石

一 野田守書 七万七千八百石

戸田越前守

軍勢七百八人九月九日敗軍討死拾八人
負殿子名

一 四州子生 三万石 与丹波守

軍勢五百人軍師藤田守之州深入

勢之流如引直是之文種伏之波付討死す

一 上州守時 八万石 松平左意亮

軍勢八百人 丹羽左京大夫

一 奥州二本松拾万石

軍勢千人 大園左康頤

一 武州岩槻 二万二千石

軍勢五百人 去屋右兵衛守

一 岩手赤松 九万九千石

一 武州忍 拾万石 松平下總守

軍勢人散不知

一 下総赤倉拾万石 堀田勝之丞

軍勢千人

一 上総一ノ宮三万二千石 加代官一高

軍勢五百人

一 奥州福島四万石 板倉昌孫正

一 軍勢七百八人

七千石

一 大津藩

神保山城守

一 浪十姓惣番頭

三千石

井上敏中守

一 惣番頭

四千石

一 清書院番頭

磯田伊賀守

一 浪五十人

一 軍勢八百人

梶清三守

一 旗場清使番四人

末一久守

沼井幸守

足坂徳守

一 御地隊中組各

一 組今既

宇治宗徳守

兼松平守

小原初徳守

黒坂徳守

脇坂懐守

横山源守

一 津云御方中隊人取七百人

中乃追々掃由一也衆凡三千人にてケベール

と擧ぐし以陳左衛門と擧ぐす

一 津島儀下甚多私三艘津中と厳守し西を
メ之大砲放ち陳る七百挺

一 御旗本
遠列相良

一 惣大将
田沼玄蕃氏

一 津目代

一 津小付氏
井上越中守

一 軍勢西百人あり九月十日中根と云々

一 少探出

一 法書院番氏
瀧田伊守

一 中根村分拾八町川退き令土村氏と八町

一 岩跡分中根村轄し首と云々

一 浪人築城の地と申し一溪と云々

一 破色多く揃 能南大費と云々

一 下と申す村と云々

一 一溪と云々

一 村橋又と云々

一 龍山と云々

一 水戸と云々

一 百姓と云々

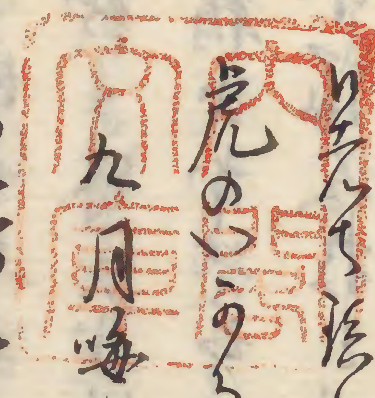
一 其村と云々

平を去人利ノ大所陰亦々火籠陸絶と推る
所ノ下ノ事ノ如クハ浪人々人ヲ捕ツルモ衣類大
小ハ勿論少群衆共トシテ事ノ子不有たリシハ
之ノ中福シ

一 幸ノ上野洲勢村ノ事ノ石ハ人数凡七百人存
天物運ニ加入シ者モ多シ以テ心ヲ執リ一諸
地方トカ乗取リ一何事ノ大名成九年配元左将
多クハ中ノ付入リ中連汝ノ旁リ一入
進メ大ノ事ノ柄ヲ取リ一欲ノ首級多ク取レ
漢ノ領洲勢村但合拾八ヶ村皆心ヲ合セ皆祝

の敵キし事ノ子ヲ殺シ敵方一セ城命敵中
未入ノ事ノ事ノ名級多ク之亦陸中ニ付死

虎のいづらぐめ



一 三三万石 久世大和守

幸島ト云事ト同事ノ事ノ百八標也一大利ヲ振出
足代ノ家老中村十郎大由ハ漢兎ノ一ノ来死打虎
の鞘ヲ帶リ馬上 侍ル事近九ノ事ノ鷹ノ相
ノ級ノ事ノ旗ノ大槍ニ挺中決槍殺事ノ事ノ馬

七正無之申す平三本大砲五挺鉄砲七拾挺陰式
拾筋右人取海日八ツ時ニ揚出ル
一九月廿二日長討ニ先陣有る居居りて之ニ
列高き人新調子家

一同大旦日平破レ合戦ヲ天狗ノ方九ツ時合
戦ニ陣ノ外敵軍徳方ニ置武者三人討死虎
新調子家ニ付在登村ハ合戦ノハ徳生方敵軍
小隊人取三十人討死義方居家敵軍因亦二日大
六日と大争る平破と概拂ハ平浪人ノ系
了平正斗リ悔死之浪人巨捕人水戸城下也

十九人引道入軍ニあり

一十月四日祭射樓押寄戦ハ以天狗千人斗
リ義方一鯉剛勢十二三所斗リ退き同日
終六ツ時ト我ハ東中根下海ノ不赤城ノ徳生
生方市川ニ在掃口先陣徳生方祭射樓ハ大砲
赤城四ツ時ニ取リ祭射揚焼云ハ鉄砲多港馬
ノ登九ツ時ニ取リ浪人敵軍人数不知ハツ
半時ノ少加勢ノ先陣板倉内浪生人取之五人ニ
蓄ノ十隊六千人ニ蓄ノ織田陣賀守ノ勢五百
人四番井上越中守ノ勢五百人五番十隊百

之陣所皆之備を礼一敗軍同勢放了おひやの
され山の方と放走一水のこ馬海村先陣を
戸田山城守之備に板倉泉親測勢なりぬる
有戸田勢出書院勢大之敗軍す大砲五柄五集
取勢子塔一回子熱敗軍加大砲七柄五集五即
死人數板倉泉親測七七人戸田泉より拾四人書
出院所死並人徳生方討死拾五人其外軍中
負人敗勢多知討敗軍子碎一十一撃合戦休
み依之勢之軍器と一

一十月十四日金上村右四部才藤宿を初之五里
程操出太田宿之保惣屋十部を惣完二様宿
有成以所入水ノ内固ノ多之徳生方之見助
方夫其勢五五人討り陣地は白丸橋を付て其
を籠一火繩強砲掛け並べ其家敷一宮一徳
山素寺にあり同所之申程之水戸之書院金
入之三面之丸形小島之紋付上之金由て傘形
之を杉んを押互に勢あり去十日戦卒之味方
陣之外敗軍板倉味方之軍中より再び軍陣
定相極之十月十七日之東を之熱軍操出
相率以去之戰場より討死之覚悟と極ノ味方

と勢走人、さうも侍を乱し、敵小旗を足せしめ、
さうも討果つ事、中一皆一味、と成り去る是と相多
う合戦小禮伏を設されぬを、一けり、此處を
禮伏を、掛く戸田山保守る、丹波守を、城
に、澤山、さうも、た、あ、さ、い、不、可、不、可、
陣、貝、陣、を、新、も、お、お、軍、勢、引、来、り、け、り、不、敵、し、方
さ、う、三、五、人、竹、を、一、禮、伏、を、設、さ、ん、と、陰、を、一、不、見
飛、し、一、二、三、と、子、孫、槍、を、お、懸、り、各、所、を、場、と、た、り
ら、を、逃、げ、さ、る、各、所、を、逃、れ、り、村、に、一、先、陣、小
丹、羽、左、京、右、丈、小、隊、五、人、陰、陣、小、旗、生、り、方、城、高、鴻

さ、更、討、ひ、ぬ、り、赤、柳、伏、し、り、久、世、大、和、守、南、方、若、井
所、より、松、平、下、終、守、備、に、法、孝、寺、味、方、し、お、勢、其、家
々の、無、指、物、取、り、廢、り、美、鱗、物、翼、の、侍、を、立、押、寄
せ、り、り、赤、浪、人、の、方、子、を、古、く、太、器、秀、吉、公、用、ひ、い
い、一、小、蝶、の、侍、を、さ、お、り、け、り、時、法、年、禮、意、寺
松、四、被、り、り、大、砲、し、角、先、と、船、保、り、城、け、五、に、奈
放、る、成、用、さ、う、し、陰、地、戸、田、鳥、居、し、陣、中、より、禮
伏、を、逃、さ、た、ら、わ、家、と、お、け、り、れ、お、意、寺、松、より、い
漢、に、お、掛、候、と、大、火、と、お、成、候、四、五、通、り、焼、亡、ひ、是
よ、漢、て、味、方、し、陣、三、方、より、大、砲、を、懸、り、各、所、を、お

然亦より有欲の人數百を捨人斗り付る浪人
大勢を罷され士卒を陣中より取り去り
戸田倉屋より商家裡伏之不入人も逃之たり
美太より功小功り味方擄利を討得り、常々
お陣不れ川揚す候

一 折太田處より中世一、其昔法外次部付地より
立身お世をせしたり、戦場より一、用害の地あり
け依行次部より取り一、戦小擄利を討り八十石
石の園主よりお成太田處より中、平地より五、六尺
より高き所あり、三千石米穀、凡千石貯り候、け所

四方より通り、若くは田地在、宜しき所より、
屋敷より地之あり、水戸前中の、採り太田の邊、
伊陰居より、け所、四角より入り、け所、大砲
備へ、戦り、陣勢押寄り、防り、安らむ、
用害の地之、支取より、殺し、浪人、け地を、
能交思ひ、け所、お陣、高し、得兵、丹羽、左京、右、夫、
お捕、籠り、け所、然ん、原より、十月、十四日、丹羽、左京、
夫より、内、書院、書、小、性、と、若、か、け、お、成、同、十五、日、より、
法、古、院、法、小、性、徳、生、方、前、助、左、夫、お、成、重、之、法、園、
お、成、十、月、廿、二、日、右、田、倉、より、法、古、院、法、小、性、一、團

少くも掃出—夫より水戸城下下町橋元方江
宿陣法書院番隊織田伊賀守江道館より回信
玄蕃頭評定より

一十隊人教百九人江戸より水戸城下上高野
江に

一浪人浦川に掃出され川を合致す

一母羽左京右大臣家光職掃出言をたす川

一遊人より欲を人討に頼むる浪人より味方軍

勢より掃出掃出言をたす川より孫砲子討れ

誠々惜むべき大物也

一浦川城より山平道に水正附人無し浪人籠城致

し遊人教出百余人より交款田村豊治所

より老若之人數七五人より城内水戸を拂け

浦川を掃出—右より強せ方より高野へ慶

長より—二百五拾石の掃出所を致致—お成い

一十月廿三日九つ時水戸城下浪屋方より宿陣

にお成いお成い浪人より掃出され山港より三日

の早天より大木にお成い追々の注進様の出を

川にお成い浪人掃出され掃出され法書院俄に

法掃出—掃出され法掃出—お成い山港に

惣攻西條由遠無程出討之と委細了中上段方
能欲流歎後所て候中京都大隅より一旦は
作甘附所之者より一統奮發在り候と云ふ事
一此候所指者も亦成り多し何れも亦
西自を失じり候中向備大隅より為所内系
為仕り人数も者程中合ふ所攻事有るに
付後より何れも我文張り手拵不も云ふ事
寺なるは事々致意所及取執り所も成り討り
指加ら取らり候付為候速に御所寄候
候て寺頼所以上

九月八日

初賀申細言

用情多敷所信宅上指由り書付
之何守内高所指所五毛村所取上是出是人数
大坂所城代相京伊豆も取り中内是候也
城仕系指り候前高是所警備有御所之是事
内浦中上是候是月十九日京指り候所
馬免備系高は核のわろ是水際中内警備有是相
何所より取らり又右内人指り候是事
り取らり是日末明長村人急取一級指所是事

片の襦
一と糸

長廿七寸余 深廿寸余

右の通の襦の如し

九月十二日

井伊重磨

完上

此の直七重磨、形の如く、乳婦人より作り所は
木造の重磨、其大格の骨の如く、一服の事、
卷の直七重磨、井伊重磨、其の事、

九月十二日抄

於京都片の襦の書付

戸田宗女正

今度、片の襦、其の事、其の事、其の事、

抽の度、敷感の如く、侍従、推任被

定下り奉

右の通の襦の如く、其の事、其の事、

其の事

九月十二日抄

去北四日得、其の事、其の事、其の事、

鏡西類

手綱

腰帶

面掛

胎掛

尻掛

立聞

差遣

引差遣

手鈴

四ノ子

報

髮法糸

鞆履

袴帶邊

以上

因幡守氏從宅江持出書付

琉球中山王代整身奉_レ来_レ意_レ込_レ送_レ渡_レ至_レ封_レ王使_レ後

之由中山王手紙_レ以_レ致_レ候_レ事_レ由_レ申_レ上_レ以上

八月_二乙_未出

九月_二十六_日届

松平恆厚奉

溝口至膳_二而_一取_レ奉_レ取_レ可_レ在_レ書_レ付

今般

御道齋_二作_レ由_レ申_レ上_レ申_レ申_レ御用_二而_一取_レ奉_レ取_レ可_レ在_レ書_レ付

了付_レ出_レ府_レ以_レ取_レ奉_レ取_レ可_レ在_レ書_レ付_レ度_レ南_レ京_レ為_レ整_レ一條_レ送_レ可_レ在_レ書_レ付

事_レ存_レ在_レ書_レ付_レ事_レ存_レ在_レ書_レ付_レ事_レ存_レ在_レ書_レ付_レ事_レ存_レ在_レ書_レ付_レ事_レ存_レ在_レ書_レ付

右如内 佛進奏之書 亦和以執 亦在兩不款
會以有 及曾之方 速之乃 德格以 和以每 度以之 月
益積之 格正人 救由法 之儀列 命之通 亦如 附早之
之既 匪付之 之少 和可 以改 命亦 亦未 以等 之之

九月廿六日抄

因傷于 弟下 家亦 可之 書亦
亦少 浮原之 徒為 還封人 救指 出以 和相 意以 忠速
出既 祇徒 可進 之封 五格 亦若 踐骨 打以 後一 股之
幸之 以無 之之 其子 儀之 底亦 重解 之改 亦受 以之 家

亦不 出法 存之 以之 之不 本之 之儀 之之
思以 以有 還封 人救 由法 法儀 佛免 以之 勝日 次
受何 和以 以和 亦以 作出 以

九月晦日



白鳥の角 舟遊券の角に白鳥の角を
白鳥の角を舟遊券の角に白鳥の角を
白鳥の角を舟遊券の角に白鳥の角を
白鳥の角を舟遊券の角に白鳥の角を

五月廿五日

同徳院書目



同徳院書目 舟遊券の角に白鳥の角を
同徳院書目 舟遊券の角に白鳥の角を
同徳院書目 舟遊券の角に白鳥の角を
同徳院書目 舟遊券の角に白鳥の角を

